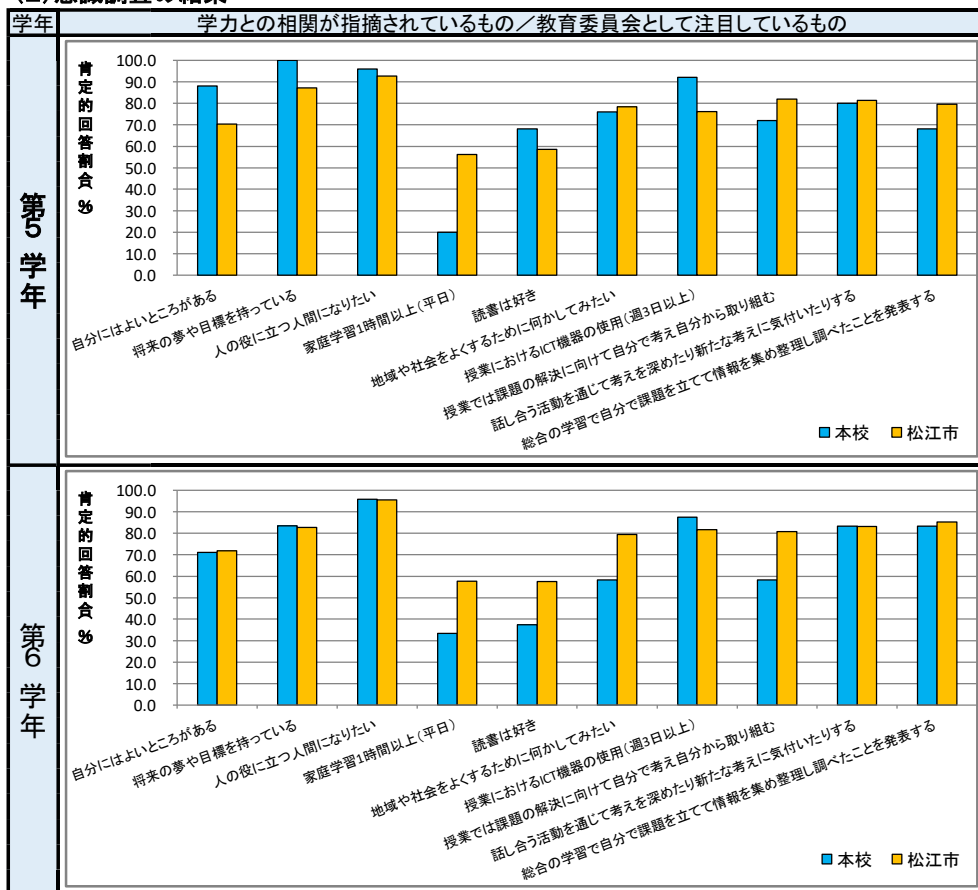


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(→)
第5学年	国語	成果 ○描写を基に登場人物の行動を捉える問題は、全国・市町村よりも正答率が高かった。描写と人物の心情を結びつけて考える力が身に付いている。 ○漢字の由来、対義語について答える問題は、全国・市町村よりも正答率が高かった。言葉の基礎・基本の理解が定着してきている。	・作文を書く活動では、普段から相手意識をもって書くことを指導していく。また、作文を書き終えた後に、自分の考えが伝わりやすい構成や表現になっているか確認する時間を取る。 ・敬語や修飾語などの言葉の使い方に関する学習に継続的に取り組む。
	算数	課題 ●全体を通して、記述で答える問題の正答率が低かった。 ●自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することに課題がある。 ●敬語や修飾語の使い方に関して、課題がある。	
第6学年	国語	成果 ○「平均」を求める力が身に付いている。 ○「整数のなかま分け」や「分数と小数」など、言葉の理解や分類、関係性を理解している。 ○「データの活用」は全国平均に近い正答率があり、表やグラフから情報を読み取る力が身に付いている。	・図形の「操作・作図・実測」する活動の時間を増やし、図形の基礎理解を図る。 ・分数・小数の計算過程を考える活動に重点を置き、自分の言葉で説明するよう促す。 ・基礎力の定着を図るために、短時間の復習時間を確保することや、少人数の個別指導の充実を図る。
	算数	課題 ●図形分野、特に角の理解が弱い。 ●分数・小数の計算処理に課題がある。 ●上位・中位層の割合が半分以上を占めるが、下位層の結果が著しく低いため、全体の結果が全国平均に届いていない。	
第6学年	国語	成果 ○説明文の全体構成を捉える問題では、市町村よりも正答率が高かった。説明文を読み、概要を捉えることができています。 ○話すこと・聞くことの問題では、半数以上が回答できており、音声から情報を捉える力はついている。生徒会などの話し合い活動の経験が生かされているのではないかと。	・漢字や言葉については、日々の授業の中で随時取り扱い、基礎的な力の定着を図る。 ・書くことについては、条件作文に丁寧に取り組むなど、継続して指導していく。 ・物語文では、内容理解だけでなく、話の構成を理解し、主題に迫るような問いかけを行っていく。 ・朝読書の時間に様々な読み物に触れ、文章を読むことを習慣化する。
	算数	課題 ●書くことにおいて、条件に合うように作文を書くことに課題がある。 ●漢字や接続詞など、言葉の力に課題がある。 ●読むことにおいて、内容理解や読み取りに課題がある。	
第6学年	国語	成果 ○基礎的な計算力は付いてきている。 ○基礎的な面積の公式を正しく覚え、活用することができています。	・授業での小テストや家庭での宿題において反復練習を取り入れ、基礎学力の定着を図る。 ・難易度別や習熟度別等、個々に寄り添った学習形態を工夫したり、子ども同士の学び合いの機会を設けたりと、柔軟に学習活動を設定する。 ・文章問題では、数値や言葉に着目して下線を引き、それが何を表しているのかを考えることで題意を把握できるようにする。
	算数	課題 ●抽象的な表現の読み取り、立式することに課題がある。 ●文章で示された条件を正しく理解していないための誤答が多い。 ●中間層に対して、上位層と下位層の両極化が顕著にみられる。下位層について、基礎学力の定着を図る手立てが必要である。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 自分の良さを認め、将来の夢や目標をもっている児童が多く、自分を大切にできる気持ちが高い。
- 学年としてICT機器を活用した授業が日常化している。
- 家庭学習の時間が1時間以上の児童の割合が極端に低く、反復して学習する習慣が身に付いていない児童が多い。

【第6学年】

- 人の役に立つ人間になりたいという気持ちをもつ児童が多い。
- 話し合い活動を通して合意形成をすることができる。
- ICTを活用することは、比較的よくできる。
- 平日の家庭学習の時間が短い。
- 読書に親しむことをあまり好まない児童が多い。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	25	名
第6学年	26	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示